



広報

かつやま

4月号

No.653

Katsuyama City Newsletter

平成21年4月9日発行



待ってたよ

3月末頃に雪が降るなど寒い日が続きましたが、4月に入ると暖かい日差しの中、桜が見頃を迎えました。新年度の始まりに、子どもたちの笑顔がかけんな桜のように輝いていました。

CONTENTS

- 平成21年度予算特集
- 3月定例市議会
- 日本ジオパーク登録
- 出会いふれあい

弁天河原 Web

歴史の散歩道

(100)

竜谷石灰山

弘化二年（一八四五）、伊波茶屋三五郎から赤禿（現在の山字「大岩谷」竜谷地籍）で石灰を焼かせてほしいと、願いが出され許可している（「永代記録」比良野家文書）。これが竜谷石灰焼きの始まりであろう。このあたりには「地白」という山字名もあり、早くから石灰岩の地質が知られていたようである。

通称「石灰山」は竜谷の「洞ヶ谷」の奥にあり、豊富で良質の石灰岩の山である。この緩やかな斜面を階段状に採掘し、岩石として出し、拳ほどに小割りし、石灰窯で石灰（コークス）を交えて焼き、熱分解して生石灰（酸化カルシウム）を製造したのである。

明治期に入ると、竜谷など数戸の家が焼成窯を築き、大量に生産した。「大野郡誌」（明治四十四年刊）によれば、野向村産業欄に「竜谷には石灰を産す」とあり、三万俵（九〇〇〇円、四十一年調べ）と記される。製品は吠に詰めて馬の背や男たちの背中で運び、近くに馬車道も設けられて、村むらへ運ばれ貴重な米づくりの肥料として珍重された。

ここでは石灰岩の搬出や小割りなどにも多くの



廃業後の竜谷の石灰山風景で、窯跡が見られる。



近くの野津又地籍の小字「堀切り」に設けた倉田源右衛門窯、火を焚く口が二つ並んでいる。この上に円筒形石積みみの窯があった。この窯の石灰石は近くの野津又地籍の山から採掘していた。

文化財保護委員 増田公輔

交通事故発生状況

※高齢者＝65歳以上

件数内訳	平成21年3月末	前年比
総件数	134件	-13
人身事故 (うち高齢者)	17件 (4)	±0 (±0)
死者 (うち高齢者)	0人 (0)	±0 (±0)
傷者	19人	+1
物損事故	117件	-13

人口の動き

	2月末現在	自然動態		社会動態		3月末現在	月間増減
		出生	死亡	転入	転出		
男	12,790人	11	16	43	45	12,783人	-7人
女	14,001人	9	10	46	51	13,995人	-6人
合計	26,791人	20	26	89	96	26,778人	-13人
世帯数	8,347世帯					8,356世帯	9世帯

編集後記

▼各地から桜の便りが聞かれる中で、新年度がスタートしました。▼勝山市では組織の一部機構改革が行われ、特に観光を強化しようとして新たに商工観光部が設置されました。▼7月18日には「はたや記念館ゆめおれ勝山」がオープンします。まちなか観光の起点となるこの施設を核として、観光客の誘致を進めていきます。観光客がまちなかを散策して観光を楽しまれる中で、市民との交流も図り、にぎわいと活力のある勝山を築いていきます。

4月の納税

固定資産税▶1期
納期間▶4月30日(木)
口座振替▶4月27日(月)

広告 広告のお申し込みは 秘書・広報課まで

